

# 志和分

し わ ぶ ん



地区へ渡る大橋ものどなか

**志和分**（しわかぶん）は、和影山（しわかげやま）とも呼ぶ。四万十川を挟んで小野川地区、影山地区の対岸に位置している。この四万十川の南岸の東西1kmほどのエリアに、14世帯・22人の住民がゆったりと暮らしている。人々はとてもまとまりがあつて暮らしやすいと地区住民は口を揃える。

室町・戦国期には、この辺り一帯は東氏が西氏のどちらかの支配下にあつたのだが、対岸のこの地域だけは志和に拠点があつた志和氏が支配していた。志和分（志和影山）の地名の由来である。

本在家城の東氏と影山城の西氏は、いずれも同じ伊予からの豪族で友好関係にあり、お互い分担・協力しながらこの辺り一帯を治めていた。対岸のこの地域も、当時は西氏の領地であつた。ところが、ある時を境に、距離の離れた海沿いを拠点とする志和氏の「かなり遠方での飛び地」と



昨年の台風の爪痕

なつたのである。派遣されたのは、志和氏の重臣・西松兵庫守である。どういったいきさつで志和氏の領地になつたのかは不明であるが、争つて奪つたということではないらしい。志和氏も伊予出身の豪族であることからすれば、それなりの友好関係があつたのかもしれない。おそらく何らかの政治的及び軍事的事情で志和氏に分割したのではないかと考えられている。

さてこの志和分は、南下してきた四万十川が東へ蛇行する際にそれを受け止めるようなポジションにある。したがつて、大水が出た時などは直撃に近い被害を過去に何度も受けてきた。昨年の台風の時も農地が甚大な被害を受けた。いまだにその爪痕が残る痛々しい。

地区には大きな杉の木がある。この地区のシンボルのような存在である。「樹齢100年は優に越える」と聞いています。子どもの頃、父がこの木にブランコを作ってくれました。そのブランコでいつまでも遊んでいた思い出が忘れられない」と、近隣の方が教えてくれた。なるほど、そんな情景がピタリくる、可愛らしくもあり見事な大杉である。当時の子どもたちの笑い声が聞こえてくるようである。

町のうごき		人口		前月比		出生		死亡		転入		転出		適正值(mg/l)		3月11日	
男	8,674	3	男	7	10	18	12	リン酸	≤ 5.0	測定範囲以下							
女	9,700	-25	女	2	18	16	25	硝酸	≤ 0.5	測定範囲以下							
計	18,374	-22	計	9	28	34	37	アンモニウム	≤ 5.0	測定範囲以下							
世帯数	8,646	-11					(2月中の届出)	アニオン活性剤	≤ 1.0	0.250							
												化学的酸素消費量	≤ 10.0	測定範囲以下			

四万十川の  
水質状況